

DP（教育目標）

- DP 1 日本語教育、翻訳通訳、TESOLのいずれかの分野において、体系的知識を習得し活用することができる。
- DP 2 言語、言語教育、翻訳・通訳に関する研究方法を理解し、日本語教育、翻訳通訳、TESOLのいずれかを軸に、国際的かつ学際的視野に基づく研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
- DP 3 グローバル社会におけるより良き社会のあり方と発展を考察するとともに、国際社会とその動向に目を向け、自文化と他文化に係る深い理解に基づく視点を持って専門的な知を追究することができる。
- DP 4 専門とする分野の必要に応じて、修得した高度な語学力を十分に発揮できるとともに、社会の様々な場面において、高度な異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP 1	DP 2	DP 3	DP 4	SDGs該当項目
基礎論	グローバルコミュニケーション基礎論(研究法・調査法)	2	選択	修士論文や課題報告書を作成するため、データ・資料の収集と分析など、言語・コミュニケーション研究の基礎となる実証的な研究方法を習得し、履修者が自分の研究テーマに合う調査・研究方法を見つけるようにする。		◎		○	
	グローバルコミュニケーション基礎論(翻訳学通訳学)	2	選択	翻訳通訳学について、その基本的な概念や学問的アプローチ、隣接分野との関わりを学び、翻訳者・通訳者の役割を理解し、履修者が翻訳通訳研究やキャリア形成に対する理解を深める。	○	◎		○	
	グローバルコミュニケーション基礎論(アカデミックライティング)	2	必修	修士論文や課題報告書など学術的文章を書くのに必要な知識や技法（論文の構成や要約の書き方、パラグラフライティングなど）を体系的に学び、履修者が、調査結果やそれに対する考察を明快に表現するための論理的な思考力と文章力を身につける。		○		◎	
専門共通	グローバルコミュニケーション研究(言語学)	2	選択	This course will develop students understanding of fundamentals for both production and processing language. Students will be asked to develop course materials that focus on production and processing dependent upon target student levels.		◎	○		
	グローバルコミュニケーション研究(第二言語習得論)	2	選択	第二言語習得研究の成果を言語教育の観点から整理し、言語教育への適用の方法を学び、履修者が自身の第二言語学習を振り返り改善するための参照点を得ることを目指す。		◎	○		
	グローバルコミュニケーション研究(異文化間コミュニケーション論)	2	選択	グローバル化社会における多文化共生と異文化間コミュニケーションの重要性を考えながら、異文化間コミュニケーションに関する基本的な知識や理論を学び、異文化間コミュニケーションにおける言語と非言語的行動パターンを理解し、履修者が自分の問題意識に応じたテーマを設定し主体的に解決に取り組む。			◎	○	
	グローバルコミュニケーション研究(日中対照言語学)	2	選択	日本語と中国語の対照研究をするために、言語学的な知識を学んで両言語の特徴を理解し、対照言語学的な研究方法を身につける。受講者は、自身の経験に基づいてテーマを設定し、対照言語学的視点から分析・考察できることを目指す。		○	○	◎	
	グローバルコミュニケーション研究(日本文化概説)	2	選択	日本の現代詩など特定のテーマを深く学ぶことで、日本文化や日本文化と外国との関係性、日本文化の特徴などについて理解を深める。日本の現代詩は、その誕生や外国との関係、変遷、代表的な詩人など多様な側面を持つ。それらを通して現代詩を理解し、文学史の基礎知識も身につける。			◎		
	グローバルコミュニケーション特別講義A	2	選択	異文化間コミュニケーションの概念や日本国内外で起きている誤解やすれ違いなどの異文化摩擦の要因を、文献を読みながら考察する。さらに、履修者の留学経験に基づいた議論を行い、グローバルコミュニケーションの諸相を考える。			◎	○	
	グローバルコミュニケーション特別講義B	2	選択	談話研究の多様性とその意義を踏まえた上で、対人コミュニケーション論としてのディスコース・ポライトネス理論とその新展開を学ぶ。基本理論となったBrownとLevinsonのポライトネス理論から、敬語研究・ポライトネス研究を検討し、ディスコース・ポライトネス理論へと進む。これから来たる人間とロボットとの共生社会も意識して、対人コミュニケーションのみならず、人間とロボットのコミュニケーションも含めて、より広い観点から考える。			◎	○	
日本語教育分野	日本語教育研究(意味論・語用論)	2	選択	意味論と語用論に関する概念や理論について学び、履修者が自分でテーマを決め、既習した理論を援用し、文献調査を行い課題の解決に取り組むことを目指す。重点は語用論に置き、語用論の基礎概念から、言語行為論やポライトネス理論、中間言語語用論などを学ぶ。	◎	○		○	4
	日本語教育研究(日本語教授法)	2	選択	日本語教授法について、20世紀初頭から現在に至る主な教授法理論を、現在の日本語教育事情や実践の場でどう役立っているかを考えながら学ぶ。履修者が現在日本における日本語教育で実際に行われている教授法について、各自調べた上で、学んだ教授法理論と結び付けて理解を深める。	◎	○			4
	日本語教育研究(分野別日本語教育論)	2	選択	分野別日本語教育に関する知識や理論を概説した上で、内容重視の批判的言語教育（Critical Content-Based Instruction）の理論と実践を学び、「内容」をキーワードとした日本語教育の現状の在り方を模索する。それによって日本語教育の現場で教育実践をデザインする際のクリティカルな視座を得ることができる。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語教育実践研究)	2	選択	日本語教育における理論に基づいてどのように研究するのか、そしてどのように実践に結びつけるのかを学ぶ。主要な理論を概観し、実際の教室でそれがどのように生かされているのかを、授業見学や実習を通して観察し、分析する。また、研究論文によって研究方法や調査法なども学ぶ。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語習得研究)	2	選択	第二言語習得論の諸研究を踏まえた上で、日本語習得研究を学ぶ。第二言語習得に関する専門知識を深く学び、履修者が日本語習得の中で興味のあるトピックを選び、先行研究を踏まえながら課題に取り組むことを目指す。	◎	○			4

	日本語教育研究(日本語文法研究)	2	選択	日本語文法について、日本語学からの視点、日本語教育からの視点、そして日本語学習者からの視点からとらえ、いわゆる「日本語教育文法」について考える。文法項目や誤用の分析、4つの技能における教育文法などを視野に入れ、「日本語教育文法」について考える。	◎	○			4
	日本語教育実習	2	選択	最初に、実際の授業の流れ、教案の立て方、教授法などを具体的に学ぶ。その後、主に授業見学→授業準備→実習→評価(反省会)という流れで学内実習が進む。授業の振り返りの自己点検では意見交換をしながら授業を振り返り、次の実習に役立てる。この授業の目標は、これらの積み重ねによってすぐに現場で教えられる力を身につけることである。	○			◎	4
翻 訳 通 訳 分 野	翻訳の理論と方法A	4	選択	機械翻訳が利用される時代ではより高いレベルの翻訳能力が求められる。翻訳に関する諸理論と方法を学び、履修者が翻訳の基本概念、理論と技法について理解を深め、言語能力と異文化間コミュニケーション能力をはじめとする翻訳能力を高める。	◎	○		○	
	翻訳の理論と方法B	2	選択	翻訳史の研究、翻訳批評、翻訳実践、翻訳論など、翻訳に関する実践と研究方法を学び、履修者が翻訳の基本概念、理論と技法について理解を深め、翻訳能力を高める。	◎	○		○	
	日英翻訳(時事・実務)A	2	選択	実務翻訳の訓練を通して、日英の翻訳技能を習得することを目指す。日英実務翻訳の特徴を理解し、翻訳力を高めるために、特に時事問題の翻訳を通して、社会問題の背景にも注目する。日英の新聞記事を比較し、専門用語を習得するとともに、時事問題に対する背景の理解を深める。	◎	○		○	
	日英翻訳(時事・実務)B	2	選択	実務翻訳の訓練を通して、日英の翻訳技能を習得することを目指す。日英実務翻訳の特徴を理解することによって、翻訳力を高めるために、特に時事問題の翻訳を通して、社会問題にも注目する。日英の新聞記事を比較し、専門用語を習得するとともに、時事問題の背景の理解を深める。	◎	○		○	
	日英翻訳(文芸・評論)A	2	選択	翻訳の訓練を通して、履修者が日英文芸・評論翻訳の技能を習得し、日英文芸・評論翻訳に求められる能力を身につける。特に小説・エッセイの翻訳を実践することによって、文化や価値観の違いも考えていく。	◎	○		○	
	日英翻訳(文芸・評論)B	2	選択	翻訳の訓練を通して、履修者が日英文芸・評論翻訳の技能を習得し、日英文芸・評論翻訳に求められる能力を高め、より良い翻訳ができることを目指す。「日英翻訳(文芸・評論)A」に引き続き、小説・エッセイの翻訳に重点を置き、日英翻訳の技術を高める。	◎	○		○	
	日中翻訳(時事・実務)A	2	選択	機械翻訳が利用される時代ではより高いレベルの翻訳能力が求められる。翻訳と密接に関わる言語・文化・翻訳・異文化コミュニケーションなどの分野における関連諸理論を学び、履修者が、時事と実務の日中翻訳の実践を通して、理論への理解を深め、翻訳力を高める。	◎	○		○	
	日中翻訳(時事・実務)B	2	選択	機械翻訳が利用される時代ではより高いレベルの翻訳能力が求められる。翻訳と密接に関わる言語・文化・翻訳・異文化コミュニケーションなどの分野における関連諸理論を学び、履修者が、時事と実務の日中翻訳の実践を通して、理論への理解を深め、翻訳力を高める。	◎	○		○	
	日中翻訳(文芸・評論)A	2	選択	小説・詩・評論などに重点を置き、原文と訳文の対照分析をすることによって、翻訳がもたらした落差を究明し、言語と翻訳の関係性を理解する。履修者が日中文芸・評論翻訳の技法を身につけ、より良い翻訳ができることを目指す。	◎	○		○	
	日中翻訳(文芸・評論)B	2	選択	小説・詩・評論などに重点を置き、原文と訳文の対照分析をすることによって、翻訳がもたらした落差を究明し、言語と翻訳の関係性を理解する。履修者が日中文芸・評論翻訳の技法を身につけ、より良い翻訳ができることを目指す。	◎	○		○	
	日韓翻訳(時事・実務)A	2	選択	日韓の社会・経済・政治に関する文章を題材にし、翻訳の基礎スキルを習得する。原文と日本語訳文を比較しながら、翻訳の仕方について理解し、特に、誤訳や意識に注意し、正確で誤解のない翻訳というのはどのようなものか考える。その上で、履修者が実際に翻訳することで、翻訳のスキルを身につける。	◎	○		○	
	日韓翻訳(時事・実務)B	2	選択	「日韓翻訳(時事・実務)A」に引き続き、日韓(韓日)翻訳の時事・実務分野における自身の研究テーマ・課題を定めた上で、必要な翻訳を実践する。その過程で個人の翻訳技術を高め、翻訳・翻訳研究についての理解を深める。	◎	○		○	
	日韓翻訳(文芸・評論)A	2	選択	日韓の文化に関する文章を題材にし、翻訳の基礎スキルを習得する。原文と日本語訳文を比較しながら、翻訳の仕方について理解し、その中で、誤訳や意識、漢字語の意味・用法の違いなども検討する。その上で、履修者が実際に翻訳することで、翻訳のスキルを身につける。	◎	○		○	
	日韓翻訳(文芸・評論)B	2	選択	「日韓翻訳(文芸・評論)A」に引き続き、新聞の文化面と歴史面に掲載された文章、韓国の生活習慣や衣食住文化について書かれた図書を主な教材として、履修者が翻訳を実践することによって、翻訳のスキルを身につけ、併せて文化分野特有の配慮事項について考える。	◎	○		○	
通訳の理論と方法A	2	選択	通訳学に関する基本概念、通訳学の研究史、通訳学研究的理論を体系的に学び、通訳研究を行うための基礎的な知識を習得する。履修者が研究事例を学ぶことによって理解を深め、自らの関心に基づいて研究を行うための理論的枠組みを構築できるようにする。	◎	○		○		

	通訳の理論と方法B	2	選択	「通訳の理論と方法A」に引き続き通訳研究に必要な知識や理論を学び、それに加えて通訳学の隣接分野、通訳研究の方向性などの知識も取り入れ、通訳プロセスへの理解を深めることを目標とする。さらに、通訳者の役割、通訳者の倫理規範など専門職としての実践からの知見を学ぶ。履修者が通訳者・通訳研究者に要求される知識や、能力などについて理解を深める。	◎	○		○	
	日中通訳(観光・コミュニティ) A	2	選択	観光・医療・司法・行政などコミュニティ通訳の現状と動向を概観し、観光・コミュニティを含めた幅広い分野の逐次通訳のテクニックを学ぶ。履修者は、逐次通訳の実践を通じて、逐次通訳のプロセスを理解し、通訳のスキルを身につける。	◎	○		○	
	日中通訳(観光・コミュニティ) B	2	選択	「日中通訳(観光・コミュニティ) A」に引き続き、前半は観光・コミュニティを含めた幅広い分野の逐次通訳のトレーニングを通じ、通訳者に必要な高度なスキルを養う。後半は同時通訳を導入し、同時通訳の基本的なスキルを身につけることを目標とする。	◎	○		○	
	日中通訳(会議・ビジネス) A	2	選択	通訳者に必要とされる基礎能力(リスニング力、スピーキング力、記憶保持力、瞬発力、推察力など)を育成し、通訳者に必要とされる異文化コミュニケーション能力を強化する。国際会議や時事ニュースなどの音声、映像メディアを教材としてトレーニングを行い、政治、外交、経済、環境などのテーマについて、十分なレベルで逐次通訳ができるようになることを目標とする。そのとき、シャドイング、サイト・トランスレーション、ノートテイキングなど実践的なトレーニングを行う。	◎	○		○	
	日中通訳(会議・ビジネス) B	2	選択	「日中通訳(会議・ビジネス) A」に引き続き、前半は、ビジネス、IT、科学技術などのテーマについて、十分なレベルで逐次通訳ができることを図り、後半は同時通訳のトレーニングを導入し、同時通訳の基本的なスキルを身につけることを目標とする。履修者が通訳の実践をすることによって、逐次通訳と同時通訳のプロセスを理解し、スキルを高める。そのとき、シャドイング、サイト・トランスレーション、ノートテイキングなど実践的なトレーニングを行う。	◎	○		○	
	日中同時通訳	2	選択	日中同時通訳に関する知識を習得し、履修者がトレーニングを通して、ビジネス、外交、政治など様々な場面における既習知識の応用力と実践力を高める。同時通訳ブース付きの国際会議室で同時通訳の実習も行い、通訳スキルのさらなる向上を図る。	◎	○		○	
	日英通訳	2	選択	日英逐次通訳に関する知識を習得し、逐次通訳の事前準備(発表者との打ち合わせ、専門的語彙の習得、通訳内容の理解など)の重要性を認識し、履修者が実践をすることによって、逐次通訳のスキルを身につける。	◎	○		○	
	通訳実習	2	選択	国際交流における通訳者の役割を正しく理解し、通訳に関する知識や技能を習得した上で通訳の実践を行う。履修者が訓練の積み重ねによって通訳・通訳者への理解を深め、通訳のスキルを高める。	○			◎	
T E S O L 分 野	Curriculum and Materials Design I	2	選択	The principal focuses of this course are lesson planning, assessment, materials creation, resources management, and the development of classroom management skills.	◎	○			4
	Foundations of English Language Teaching	2	選択	This course will help develop students understanding of the basic principles of language teaching in order to develop language skills. Students will study aspects of teaching for developing speaking, listening, reading and writing skills.	◎	○			4
	Curriculum and Materials Design II	2	選択	This course focuses on concepts and terminology relating to the teaching of the four skills, the purpose and features of the macroskills, features of written and spoken English, obstacles to learning and improvement, and the teaching of effective learning strategies.	◎	○			4
	English Language Structure Analysis	2	選択	In this course, students will study aspects of the English language in terms of words, sentences and speech sounds. This course will also help develop students understanding of factors that influence second language learning.	◎	○			4
	Practicum	2	選択	This course focuses on the preparation and development of lesson plans and class materials to be used in the teaching sessions. In addition, students observe and conduct lessons, and complete class feedback evaluation forms.	◎	○			4
	Portfolio Compilation and Presentation	2	選択	Students compile lesson plans, teaching materials and assessment frameworks, presentations, demo class outlines and other related work in their portfolios. The portfolio is also required to include rationales of the theory underpinning their choices.	◎	○			4
演 習	グローバルコミュニケーション演習 I	2	必修	修士論文または課題研究報告書の作成に向け、履修者は授業で研究の進捗状況を報告し、指導教員や履修者とディスカッションを行う。演習 I では、各研究分野及び関連領域に関する文献・調査資料を読み、研究テーマと研究目的・課題の設定を行ない、研究計画の骨組みを立てることを目標とする。		◎	○	○	
	グローバルコミュニケーション演習 II	2	必修	修士論文または課題研究報告書の作成に向け、履修者は、研究の進捗状況を報告し、指導教員や履修者とディスカッションを行う。演習 I を踏まえて各研究分野及び関連領域に関する文献・調査資料をさらに読み込みながら、自身の設定した研究目的・課題を元に、理論的枠組み・研究対象・研究方法などを決め、文献・実地調査を行う。		◎	○	○	
	グローバルコミュニケーション演習 III	2	必修	修士論文または課題研究報告書の作成に向け、履修者は、研究の進捗状況を報告し、指導教員や履修者とディスカッションを行う。演習 I ・演習 II を踏まえて、研究テーマ・課題に従って、文献・実地調査の実施によって収集したデータに対し、分析・考察を行う。		◎	○	○	

	グローバルコミュニケーション演習Ⅳ	2	必修	論文または課題研究報告書の提出に向けて、研究テーマ、研究目的・課題、理論的枠組み、研究概要の内容を再確認しつつ、文献・実地調査の結果・考察、終章をまとめていく。履修者は、研究内容を発表し、指導教員や履修者と議論しながら、不足点の修正や内容の進展を行う。		◎	○	○	
	インターンシップ	2	選択	インターンシップは院生のキャリア形成に重要な実践教育の一つである。履修者は、大学院で習得した専門知識と語学力を活かし、企業、公的機関、民間団体などで就業体験をする。そして、社会人としての技能や態度を磨き、修了後の国際舞台での活躍に寄与する。事前授業、現場体験、事後授業という3段階に分けて実施する。	○			◎	4
分野 共通 科目	文献講読	2	選択	履修者は留学生に限定する。履修者が日本語で書かれた文献を読み、要約の作成や研究の位置づけの理解、資料の扱いなど修士論文等の作成に必要なスキルを学ぶことを目的とする。扱う文献は、言語学や言語教育、その関連分野など、履修者の専門分野の学びに役立つ分野の文献とする。	○			◎	
	日本語プレゼンテーション技法	2	選択	プレゼンテーションに関して、主に聴衆や対象者とのコミュニケーションに関する基本要素を学び、さまざまな実践を通じてプレゼンテーションの基本概念と基礎技術を身につける。さらに効果的なプレゼンテーション資料の作成や、ディスカッションやディベートなどの演習を通じて、グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を養成する。題材は、身近な話題から社会的に議論のある大きなテーマまで幅広いものとする。				◎	
	日本語ライティング技法	2	選択	日本語という言語の性格を了解した上で、文章における日本語の役割はどのようなものであるかについて、様々な文献をとらえて探求する。また、言語をどうやってうまく文章に表現できるかについても、その表現法におけるテクニックなどに関する知識は、授業でエッセイや小説や詩を通して言語の理解を深め、ライティング技法を身につける。				◎	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」
2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」